

<p>[科目名]</p> <p>マクロ経済学</p>	<p>[単位数]</p> <p>4 単位</p>	<p>[科目区分]</p> <p>専門科目 基礎科目</p>
<p>[担当者]</p> <p>巽 一樹</p>	<p>[オフィス・アワー]</p> <p>時間:授業終了後 場所:巽研究室(529)</p>	<p>[授業の方法]</p> <p>講義</p>
<p>[科目の概要]</p> <p>「マクロ経済学」は一国の全体的な経済活動を対象として、国民所得、物価水準、失業率などについて研究する学問である。本科目では、最初に、国内総生産(GDP)の説明から始める。GDP はどのようなものによって構成されており、マクロ経済において、どのような意義を持っているのか説明する。次に、古典派理論を用いて長期の経済について検討する。続いて、GDP が決定する仕組みについて、短期のマクロ経済モデルを使って説明する。最初はケインジアン・モデルの紹介から行い、IS—LM モデルと呼ばれる利子率を考慮した分析へと発展させてゆく。後半では、経済成長の理論について、説明する。特に、各国における成長を促進することを目的とした経済政策にはどのような効果があるのか議論する。</p> <p>終盤では、経済変動の動学モデルを取り上げる。物価水準の変動にはどのような効果があるのか説明した上で、今後の経済政策について検討を行う。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]</p> <p>「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の大きな違いは個別の経済現象を分析の対象とするか、一国全体の国民経済を分析対象とするかにある。「ミクロ経済学」は家計の効用最大化行動や企業の利潤最大化といった個別の経済主体の最適化行動やその相互依存関係を分析対象としている。一方で、「マクロ経済学」は国民経済全体の経済活動を分析対象としている。例えば、国内総生産、雇用問題、物価変動、経済成長などが分析の対象となる。また、マクロ経済モデルは「ミクロ経済学」と比較し、現実を重視しており、政策的な意味を追求する傾向にある。</p> <p>「マクロ経済学」は「ミクロ経済学」とともに最も基礎的な分野である。これらは応用経済学と呼ばれる「財政学」、「金融経済学」、「国際経済学」、「労働経済学」における分析の基礎付けとなっている。「マクロ経済学」の理解を通じて、基幹科目の修得に役立てられることが期待される。また、マクロ経済モデルを学べば、GDP や物価水準の決定する仕組みについて理解できるようになり、新聞記事やニュースを正しく読み取る力が身に付けられる。官公庁や金融機関に就職したいと考えている学生にとっても、政策効果を分析する手助けとなる。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]</p> <p>中間目標はマクロ経済モデルを用いて、経済政策の効果について説明できることである。まず、消費・投資の決定理論について理解することを目指す。その次に、マクロ経済モデルにおけるGDP、利子率、物価水準などマクロ経済変数が決定する仕組みについて理解することを目指す。それらの理論をもとに、経済政策によって、それらのマクロ経済変数がどのように変化するか分析できるようになることを目指す。経済学で扱う数学は難しいと思われがちであるが、講義時における問題演習を繰り返すことによって、着実な理解ができることを目指す。将来、公務員試験を受ける学生にとっても必要な力となる。また、今後履修する基幹科目における理解の助けとなる。</p> <p>最終目標は今後の日本経済及び世界経済に対する望ましい経済政策について提案できることにある。そのために、練習問題やディスカッションの際に、政策立案のためのトレーニングを行う。具体的には、理論と現実データの整合性に関する確認、身近な社会問題に対するマクロ経済理論を使った分析を行う。これらを繰り返すことによって、マクロ経済モデルに対する理解が深まるとともに、各自の希望進路に応じた実力を身に付けることができる。公務員を志望する学生にとっては政策効果の分析や政策立案力を高められるようになる。民間企業を志望する学生にとっても、経済動向を適切に把握する助けとなる。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]</p> <p>「板書の字が小さい」、「声が小さい」、「試験対策の問題が欲しい」等のコメントがありました。文字の大きさに注意し、板書をするようにします。説明の際、声量・マイクの音量に注意します。また、演習を行うための時間を昨年度よりも多く確保したいと思います。</p>		

<p>〔教科書〕 N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳) (2024).『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇(第5版)』.東洋経済新報社 N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳) (2024).『マンキュー マクロ経済学II 応用篇(第5版)』.東洋経済新報社</p>													
<p>〔指定図書〕 福田慎一,照山博司 (2023).『マクロ経済学・入門 第6版』.有斐閣</p>													
<p>〔参考書〕 齊藤誠,岩本康志,太田聰一,柴田章久 (2016).『マクロ経済学 新版』.有斐閣 二神孝一(2017).『マクロ経済学入門 [第3版]』日本評論社 中谷巖,下井直毅,塚田裕昭 (2021).『入門 マクロ経済学 [第6版]』.日本評論社</p>													
<p>〔前提科目〕 特になし</p>													
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験 100%で評価する。期末試験の持ち込み資料は不可とする。</p>													
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>得点比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>80%~100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70%~80%未満</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60%~70%未満</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>50%~60%未満</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>		評価	得点比率	A	80%~100%	B	70%~80%未満	C	60%~70%未満	D	50%~60%未満	F	50%未満
評価	得点比率												
A	80%~100%												
B	70%~80%未満												
C	60%~70%未満												
D	50%~60%未満												
F	50%未満												
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義中は問題演習及びディスカッションの時間を多く取る予定である。問題演習を通じて、着実な理解を目指していただきたい。疑問点については、講師への質問を積極的に行い、その都度解決していただきたい。また、ディスカッションでは、現実の経済データからどのようなことが起きているのか、どのような経済政策が望まれるのか、積極的に議論をしていただきたいと考えている。</p>													
<p>〔実務経歴〕 該当なし。</p>													
<p>授業スケジュール</p>													
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学としてのマクロ経済学 内 容:マクロ経済学の研究対象、考え方について説明する。 教科書・指定図書 教科書1 第1章</p>												
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):マクロ経済学のデータ 内 容:国民経済計算、三面等価の原則を通じて、GDP の概念について説明する。また、GDP デフレーター、消費者物価指数など物価水準の指標についても説明する。 教科書・指定図書 教科書1 第2章</p>												
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):財・サービスの総生産 内 容:財・サービスの総生産を決定する要因を確認し、生産要素がどのように分配されるか説明する。 教科書・指定図書 教科書1 第3章</p>												
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):財・サービスの需要 内 容:財・サービスの需要を決定する要因を確認し、財・サービスの需要と供給の均衡について説明する。 教科書・指定図書 教科書1 第3章</p>												
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):貨幣システム 内 容:貨幣、貨幣システムにおける銀行の役割について説明し、マネーサプライへの中央銀行の影響について検討する。 教科書・指定図書 教科書1 第4章</p>												

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):貨幣数量説、貨幣発行収入、インフレーションと利子率 内 容:貨幣需要が国民所得のみに依存する貨幣数量説について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第5章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):名目利子率と貨幣需要、インフレーションの社会的コスト、ハイパーインフレ 内 容:貨幣需要と名目利子率の関係について説明し、インフレがもたらすコストについて議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第5章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本と財の国際的な流れ、小国開放経済の貯蓄と投資 内 容:開放経済について説明し、小国開放経済における貯蓄と投資のモデルについて議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):為替レート、大国開放経済 内 容:名目為替レートの決定要因について説明し、名目為替レートと実質為替レートの違いについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第6章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):就職と自然失業率、職探しと摩擦的失業 内 容:労働市場について説明し、摩擦的失業の原因について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第7章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):実質賃金と構造的失業、労働市場の経験 内 容:実質賃金の硬直性について説明し、アメリカ、ヨーロッパにおける労働市場の経験について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第7章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):景気循環に関する事実、マクロ経済学における時間的視野、総需要 内 容: GDP の構成要素について説明し、マクロ経済学における短期と長期との相違について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第8章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):総供給、安定化政策、2020年の新型コロナ不況 内 容:総需要-総供給モデルを用いて2020年の新型コロナ不況をはじめとした経済問題について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第8章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS-LM モデルの構築 内 容:財市場の需給均衡を満たす GDP と利子率の組み合わせを表す IS 曲線、貨幣市場の需給均衡を満たす GDP と利子率の組み合わせを表す LM 曲線について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第9章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 内 容:IS 曲線、LM 曲線を用いて、財政政策及び金融政策の効果について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第10章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):マンデル=フレミング・モデル、利子率格差 内 容: IS-LM モデルを小国開放経済に拡張した、マンデル=フレミング・モデルについて説明し、その政策の効果について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第11章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):変動相場制と固定相場制、物価水準の変化を伴うマンデル=フレミング・モデル 内 容:変動相場制と固定相場制について説明する。また、マンデル=フレミング・モデルの長期への拡張を試みる。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第11章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ 内 容:失業率と物価変動の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書1第12章</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済成長の源泉としての資本蓄積 内 容:ソロー・モデルを用いて、経済成長率がどのようにして決定するのか説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第1章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):人口成長と技術進歩 内 容:ソロー・モデルにおける人口成長と技術進歩について説明する。 教科書・指定図書 教科書2第2章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):内生的成長理論 内 容:ソロー・モデルを拡張し、内生的成長理論について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第2章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):成長の実証と政策 内 容:ソローの成長会計について説明し、経済成長の決定要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第3章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済変動の動学モデルの要素と解 内 容:経済変動の動学モデルについて説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第4章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済変動の動学モデルの利用、DSGE モデル 内 容:経済変動の動学モデルを用いてその政策効果について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第4章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済の安定化政策に関する異なる考え方 内 容:経済政策について、積極的であるべきか、受動的であるべきかについて異なる考え方について説明し、政策の運営について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第5章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):政府負債の規模と伝統的見解 内 容:各国における政府負債の規模とその拡大がもたらす問題について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第6章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):政府負債の他の側面とリカード派の見解 内 容:政府負債の拡大がもたらす問題の他の側面について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第6章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融システム 内 容:金融システムについて説明し、金融危機の分析を行う。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第7章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費と投資のミクロ的基礎 内 容:個人の消費支出と企業の設備投資の決定について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書2第8章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):わかっていること、いないこと 内 容:本科目で得られた結論について振り返り、マクロ経済学の未解決の最重要問題について検討する。 教科書・指定図書 教科書2終章</p>
試験	筆記試験の実施